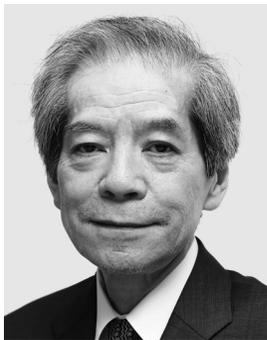


混沌たる世界と日本

広島大学平和科学研究センター長、元国連大使

西田恒夫

- *冷戦下の東ベルリンでの経験
- *政権交代を早めるためのパレード
- *外交はサプライズを嫌う
- *自前で戦争できる国は二つだけ
- *国連活動の三つの柱
- *優秀な人材が集まる国連事務局
- *国連改革はなぜ簡単ではないか
- *半減した日本の分担比率
- *弱者を助けても怠け者は許さない



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は初めてでございますが、元国連大使の西田恒夫さんに来ていただきました。経歴をご覧いただければおわかりのように、外務省のキャリア外交官で、先ほどお話を伺いましたら、あちらこちらを幅広く歴任をされ、最後が国連大使というところでございます。

世界の状況は大変読みにくい状況ですが、なかでもアジア、アメリカも非常に流動的な状況になっていきます。安倍政権は一応あと3年ということになります。安倍首相は外交を熱心にやってみましたが、これがこれからどうなっていくのか。その辺も含めて、世界と日本の状況を今日はお話させていただきます。皆さんの質問にも、西田さんは何でも答えていただけると

思いますので、楽しみに聞いていただいて質問していただきたいと思います。

それでは西田さん、よろしくお願いいたします。（拍手）

西田 どうも温かいご紹介ありがとうございます。たぶん皆さんと同じぐらいの世代であろうかと拝察いたしますけれども、典型的なわれの世代の公務員ですから、外務省に入っただただ外務省に勤めて、ご紹介のように2年ちょっと前に退官して、最後は国連大使ということになりました。同世代の方が多いようです。私はどういうような時代背景の下で大学とか、あるいは社会人になったかというのは、時間をかけてご説明する必要はないだろうと思います。